

令和5年度
学校評価報告書

四天王寺東高等学校
四天王寺東中学校

目 次

1. めざす学校像	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 中期的目標	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 自己評価アンケートの結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
4. 各設問ごとの分析と具体的な改善方法	・・・・・・・・・・・・・・・・	3 ~ 5
5. 学校関係者評価委員会からの評価	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6. 本年度の取り組み内容及び自己評価	・・・・・・・・・・・・・・・・	7 ~ 8

資料

① 令和5年度 自己評価アンケート 集計結果	資料①	9
② 過去4年間の肯定評価（評価1＋評価2）の推移と前年度との比較	資料②	10
③ 肯定評価（評価1＋評価2）の前年度比	資料③	11

令和5年度 四天王寺東高等学校・四天王寺東中学校 学校評価

1. めざす学校像

聖徳太子が帰依された仏教の精神に基づく情操教育の実践及び教科学習・学校行事・クラブ活動を通して、豊かな人間性を備え、知・徳・体すべてに調和のとれた人物を育成します。また、社会ルールや校則を遵守し、探究型教育やICT教育などに積極的に取り組み、粘り強く努力を重ねて学習に励むことにより、希望する進路を実現し、将来リーダーとして活躍できる人間力を備えた人物の育成を目指します。

目標

1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。

2. 中期的目標

1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 1. 生徒会活動が活発に行われている。
 2. 部活動が活発に行われている。
2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 1. 家庭学習時間の確保に向けた取り組みが行われている。
 2. 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている。
3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 1. 進路説明会は、適切に計画・実施されている。
 2. 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている。
4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。
 1. 遅刻・欠席を少なくさせている。
 2. 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。
5. 学校運営について
 1. 職員の生徒募集の意識高揚が図られている。
 2. 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している。

自己評価アンケートの結果（%表示）（令和6年1月実施）						
	番号	設 問	結果(%)			
			1	2	3	4
目標1	1	校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	57	33	10	0
	2	生徒会活動が活発に行われている	17	54	25	4
	3	部活動が活発に行われている	21	63	15	0
	4	人権教育が適切に計画・実施されている	19	67	12	2
	5	いじめに対する基本方針に沿い、その取り組みが適切に実施されている	18	78	4	0
	6	仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	31	52	12	6
目標2	7	教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	34	62	4	0
	8	効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	33	57	8	2
	9	年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	51	43	4	2
	10	公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	31	62	8	0
	11	教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	39	53	8	0
	12	学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	18	69	14	0
	13	家庭学習時間の確保に向けた取り組みを行っている	22	61	16	0
	14	授業で、探究活動を実践したり、ICT（情報通信技術）を活用している	31	61	8	0
目標3	15	クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	21	60	15	4
	16	生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	51	49	0	0
	17	進路説明会は、適切に計画・実施されている	61	39	0	0
	18	定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	71	29	0	0
目標4	19	実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	35	54	8	4
	20	校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	24	59	18	0
	21	生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	31	41	25	2
	22	社会のルールマナーを順守させている	14	67	18	2
	23	服装規定を守らせている	12	67	22	0
	24	生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	63	35	2	0
	25	遅刻・欠席を少なくさせている	22	57	22	0
	26	挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	24	67	10	0
学校運営	27	環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	31	63	4	2
	28	年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	22	71	8	0
	29	職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	29	55	16	0
	30	教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	27	61	12	0
	31	学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	45	45	10	0
	32	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	24	63	10	4
	33	教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	21	63	15	0
	34	防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	45	55	0	0
	35	入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	65	35	0	0
	36	ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	67	31	2	0
	37	個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	53	45	0	2
	38	職員の生徒募集の意識高揚が図られている	35	56	10	0

*結果の評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（まったくあてはまらない）

評価1と評価2による分析（肯定評価）

（資料①、②、③参照）

令和6年度よりさらに全体のレベルアップを図るために、改善の余地を示す基準を70%から75%に引き上げている。それを念頭に置き今年度のアンケート結果を分析すると、評価1＋評価2の全体の平均は、89.3%と昨年度よりも2%上昇し、且つ肯定評価が85%以上の項目も38項目中26項目と、これも昨年度と比べ3項目増となっている。かたや改善の余地ありの項目は昨年度の3項目から1つ減り2項目となった。全体的には昨年度と比較し大きな評価の差異はないが、今後も項目内容の見直しも視野に入れ、更なるレベルアップを図っていききたい。

	番号	分 析	具 体 的 な 改 善 方 法
目標1	1	昨年度と比較して、5.9%肯定評価が下がっているものの、今年度も90%以上の肯定評価をいただいている。修学旅行の行き先が、当初考えていた海外になれば100%近くの肯定評価をいただけるのではないかとと思われる。	今後も今年度同様生徒が喜んでくれるような、楽しく、安全で、少しでもコストダウンできる企画を考える必要がある。
	2	昨年度と比較して、5.3%肯定評価が下がっている。この原因として考えられる1つとして、生徒会活動が生徒会のメンバーだけで行われていることが多く、教員や生徒に生徒会の活動が知れ渡っていないということが考えられる。もう1つは、中学校の生徒会は学校のため意欲的に活動しようとするが、高校の生徒会の活動があまりみられなかった事が考えられる。	生徒会の活動を生徒会のメンバーだけでなく、他の生徒にも声掛けをしていくのが良い。清掃活動や募金活動、また文化祭も希望者を募り(校内装飾や生徒会イベントなどを)生徒会全体と一緒にやる。周りの生徒を巻き込むことで、学校全体に生徒会活動が伝わると思われる。その他、年1回書き換えるクラブポスターを例年は4月中旬ごろ生徒にお願いしているが、次年度はできる限り早く更新したい。 選挙について、選挙は適切に行われているが、各学年の先生から生徒会にふさわしい人物を推薦いただくなどこちらからの働きかけが必要と考える。また、入学対策のイベントにTシャツを揃え参加することも続けていきたい。
	3	昨年度と比較して、1.9%肯定評価が下がっているものの、比較的评价が高い。コロナ禍が明けたのが、肯定評価が上がった最大の原因と考えられるが逆にその間クラブができなかったのが新しい趣味等ができ、もはやクラブに戻れない状態の生徒もいるのではないかと。	比較的高い肯定評価を頂いているが、実際のところクラブ指導者(教員)の負担が大きい。「クラブ活動を活発にしていきたい」という学校方針であれば、「時間外のクラブ指導」という問題についても真剣に考えていくべき必要がある。また、教員で回らない場合例えば、週に1回、月に1回でも外部からコーチを雇用するなど対策を練るべきだ。来年度4月初めにクラブ紹介をすることで、新入生がより部活に興味を抱けるようにする。クラブを活発に行い、学校の活性化につなげたい。
	4	昨年度と比較して、6.1%肯定評価が上がっている。各学年に応じた適切な人権目標を各学年ごとに定め実践したことにより肯定評価が上がった原因と考える。	学年のテーマを一つ掲げて実施しているが、学年の事情も考え必要に応じて柔軟に取り組めるようにすることも必要であるとえられる。また、今後も時代の変化を考慮して適切な教材や映像資料・作品を選定していけるように取り組むことが大事だとえられる。
	5	昨年度と比較して、3.9%肯定評価が上がり、昨年度に引き続き90%以上の高評価を得ている。「心のアンケート」を年2回実施し、「書き込み」についての分析を行うなど見えないいいじめも見逃すまいとする取り組みが評価されたものと考えられる。	各学年の先生方の日頃の気づきで何かあれば適切な対応をして頂いている。今後は人権教育係として、問題が起こった時の迅速な対応について考えていく必要があると思われる。継続してアンケートを実施し、生徒に寄り添い、問題の早期発見に努めていくことが大切と考えられる。
	6	令和4年度の81.6%から82.7%に数値的に上がっている。これは、個々の先生方が仏教教育と仏教行事に対して、その他業務もお忙しい中、ご理解とご協力をくださり、御自らも聖徳太子が帰依された仏教の精神を礎とする学校に奉職する身として、日々自己研鑽、仏道修行の意識をお持ちであることのアラわれだと思われ。ご理解、ご協力くださった方々に心から御礼を申し上げたい。	まずは、仏教の授業や行事に対して、生徒が「この学校で仏教を学んで良かった」という意識を持ってもらうよう、自分達(教員)が自己研鑽に努めること。これが大前提だと思っている。その為、仏教の学びと仏道修行を更に深め、生徒が納得するような境地から顕現するような教養を説き、生徒や社会に還元していくことを目標としたい。しかしながら、世俗諦(一般世間)の経験や学びだけでは得られないものであり、一般的な知恵や利・害意識・処世術のようなものではないことを、周囲にもご理解いただくことにも努力していきたい。日々の、ガレリア・講堂の御本尊前での礼拝、朝の心経読誦も繰り返し生徒に対してその意義や功徳を話して勸進し、様々な仏教行事では単なる形式的な儀式と受け取られては大変勿体ないことなので、そこに込められている意味や得られる功徳を詳しく説明していきたい。
目標2	7	高い評価が得られているが、高すぎる気がする。	学年・コース・科目によっては、考査の前など自習の時間が多いように見受けられたので、各教科でもっともんでいただき、より本校の生徒の力を伸ばしていく教育課程を作成していくべきである。
	8	学年会議等の会議枠や、一部、非常勤講師の先生方の厳しい条件の中で、クラスの時間割について、曜日の偏りや午前・午後授業バランス等はご指摘をいただいたが、90%以上の肯定評価を維持していることから、適切な時間割を組むことができたことと考える。	条件がある以上、限界はどうしてもあるが、生徒にとって最高のパフォーマンスを発揮できるような時間割の作成をめざしていく。また、時間割作成を効率よく行うために、事前準備をしっかりと行い正確な情報を早く得ることができる環境作りをしていく。
	9	高い評価が得られている。	高い評価は得られているが、年間計画だけではなく、3年間、あるいは6年間を見通した各教科の目標、例えば、生徒にどのような力をつけさせ、そのためにどのような戦略を立てるか、といったものを教科内で共有していくべきである。
	10	高い評価が得られている。	高い評価は得られているが、公開授業については、日程を先生方へ早目に伝えるなど、公開授業が重ならないようにすることで、もっと多くの参観者が増えるようにしたい。また、授業研究については、現状に満足することなく、更に教科研究や研修に熱心に取り組み、日々改善を目指していく。

目標2	11	高い評価が得られている。	評価は高いが、まだまだ取り組むべき課題は沢山あると考えられる。それぞれの教科担当者がそれぞれの計画を作るだけでなく、教科としてある程度一貫した流れを作っていくために、各教科とも、積んでいくべきであるとする。また、「総合探究」については未だ具現化されたものがないように思えるので、今後の探究活動について何らかの方針を発信していくべきだ。
	12	「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が前年比+3.6で86.3%と高く、体制が整ってきていると考えられる。先生方が居残り補習や、各休暇に特別補習など積極的に取り組んでいるのがこの数字に表れている。	現状を安定して継続することが重要であるとする。生徒の学力層の幅が大きい中、講習や補習、放課後学習を戦略的にどう活用していくかを考えていく必要がある。しかし、やみくもに補習を行うのではなく、クラブ生などにも配慮しながら行う事も大事である。
	13	「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が前年比-8.5で83.7%と下降しているが、ある程度高く維持できているので、取り組みはある程度評価されていると考えられる。家庭学習時間=宿題の量を意味すると思うが、校内でno.12の取り組みが行われているので、数字の減は気にしなくて良いと思う。	家庭学習時間の確保に向けた取り組みを学校で行うことは非常に難しい。「適切と思われる課題」と「各家庭の協力と意識付け」などの取り組みを、継続して行うことが大切だと思う。家庭学習の目標を明確にする必要がある。提出することにばかり気が向いている生徒は「分かる所を埋める」「分からないところは答えを丸写しする」ということになり、本末転倒になる可能性もある。「分からないところを積極的に考察する」ための学習について各授業等を通じて伝えていく必要がある。 長期休暇のみでなく週末や連休も各教科足並みをそろえて、課題を提示する必要がある。家庭学習の最大の障壁となるスマホやタブレット端末との付き合い方を、きっちり指導することが必要である。
	14	昨年度より若干の改善がみられる。	デジタル採点を含む様々なツールが導入されている状況であることも相まって意識的にICTを使う先生方も増えている。あくまでツールであるので、使い方は様々だが、生徒のどの力をどう伸ばしたいのか、より意識して授業構成を練っていくことによって、より探究的な活動の充実が図られるのではないだろうか。
	15	「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が前年比-11.5%と下降しているが、今年度も80.8%と比較的高く、ある程度は良く評価されているのではないかと考えられる。	新課程になり科目名が変わっていく中で本校のコースでもⅡコース文理ができたりと変化している。クラス編成や講習にも影響して複雑になってきている。今後、適切に整備されていくはずなので、改善していくのではないかと考えられる。講習の目的について、教員はもちろんのこと生徒にその意義をきちんと理解させた方がよい。講習期間を利用するなどして探究活動の時間を拡充する考えもある。高2以降のⅡコースの学力層が定まらない。Ⅱコース上位層をもっと引き上げるためにはコース編成の再考も必要かもしれない。
目標3	16	令和4年度、「よくあてはまる」「ややあてはまる」で100%を占め、5年度も変わらず100%が維持されているので、状況に応じた必要な情報が提供されていると評価されている。	今後も良い評価が維持されるように、時代の流れと、生徒の実態に応じた進路選択のための情報を提供する。
	17	「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が前年比+1.9で100%となり、進路説明会は適切に計画・実施されていると評価されている。	今後も生徒の実態を把握し、実情に応じた進路説明会を計画するように努める。また、進路指導はコースによって違う場合が多いので、一斉に聞くことも大事であるが、コース別の実施も検討に値する。
	18	「よくあてはまる」「ややあてはまる」が前年比+2.0で100%を占め、適切な進路指導がなされていると評価されている。各担任の先生が高い頻度で懇談・面談を行う姿をよく見かける。この日常の取り組みが高い評価につながっていると考えられる。	担任の先生をはじめとした細やかな面談が実施されている。各コースにおける進路指導の目標や方法論等の共通理解が図れば、より適切な進路面談を行うことができるのではないかと。また、この取り組みが継続して続けられるような、心と時間にゆとりができる職場環境作りを行うべきである。
	19	「よくあてはまる」「ややあてはまる」が前年比-7.7で88.5%と下降したが、なおほぼ9割を占めているので、概ね評価はよく、適切に活用していると捉えられていると考えられる。実力考査の取り扱いを改善していくべきだとの声かもしれない。	実力考査は、このままで実施する場合、目的の明確化をするべきである。また、実施せずに模試で代替する、または、教科ごとに実施をするかどうか検討し、しない場合は授業で確認テストをするなどの対応を取る、などの内容を今後検討する。模試については、高2スタディサポートや中学の学力推移など、実施についての見直しが必要かもしれない。また、模試はただ受けっぱなしにするのではなく、早い段階で模試の資料の見方や復習の仕方などをフィードバックすることが必要である。ベネッセ等に依頼すれば教員向けあるいは生徒向けの講演もやってもらえるので、積極的に活用するべきである。
目標4	20	昨年度と比較して、肯定評価が13%上がっている。これはひとえに各先生方がクラスの様子からまた、時事問題から本来どうあるべきかというような問いかけをされ指導されているからだとする。	今後も朝終礼、ホームルーム等で今クラスで起こっている事また、時事問題を紹介し考えなければならぬことを問題提起して、生徒に様々な考えをさせる指導が必要とする。
	21	昨年度と比較して、肯定評価が1.1%上がっているが、昨年度に引き続き70%代と低い値となっている。これは問題行動となった事案を全教員で共有できていないことが原因だと考えられる。	各教員には守秘義務があるのだから、起こっている問題行動について共有する必要がある。毎行われている生徒指導の会議情報（問題行動や学年で気になる情報等）をそれぞれの学年会議におろすことで共有できる。また、そうすることにより問題行動を未然に防ぐことにもなることが期待できる。
	22	昨年度と比較して、肯定評価が2.8%上がって、70%代から80%代に向上した。これも先生方が何か問題が起きた時にすぐさま適切な指導をされているからに他ならないとする。	モラル教育は、その事象を見た折に、見逃さずその場ですぐに指導できるか否かにかかっている。学校では規定違反があれば、直ぐにきちんと正させる姿勢が何よりも肝要とする。もうワンランクレベルアップするには、「全教員が統一した指導」が必要になる。そこを目指したい。
	23	昨年度と比較して、肯定評価が11.1%上がっている。昨年度は60%代で、3年連続で重点目標にし取り組みを行い、違反があればすぐその場で正させる指導が実を結んだとする。	肯定評価が11.1%上がったと言っても、まだ70%代。これは、他学年の教えていない生徒に対する指導がなかなか難しいこと。また、「教員によりその指導の仕方が違う」という生徒のアンケート結果もあり、様々な問題はあるが、先生方にもご協力いただき、生徒にも何度も何度も言い聞かせるしか方法は無いとする。

目標4	24	昨年度と比較して、肯定評価が同数の98%と非常に高い評価をいただいている。生徒指導は、保護者の方のご理解、ご協力無くしてはできないので、生徒のことで何かあれば直ぐに連絡を取っている現状であるため高い数値になっている。	今後も、どういう理由で指導するに至ったのかを問題行動が起こる度に保護者連絡をし、ご家庭でも注意していただけるよう働きかけたい。何か起こった時に指導した内容、保護者報告の内容等の記録の内容等を付けておくことを各学年徹底したい。
	25	昨年度と比較して、肯定評価が18.4%上がっている。「遅刻、欠席を少なくさせている」については、2年連続否定評価が続き3年連続「重点目標」とした経緯がある。今年度毎日毎日先生方が朝礼前から、廊下、下足室で声掛けをしてくださり、生徒の意識が変わったものとする。	今後も先生方には、「時間を守ることの大切さ」を事あるごとに説いていただくとともに、朝礼前から遅刻しそうな生徒に声掛けを継続して続けていただくようお願いしたい。また、遅刻した生徒にはその理由を聞いていただき、生活習慣の見直し等の指導も継続して行っていただきたい。朝礼前の立番については、先生方自身が考案してやってくださっているので、本当に感謝しかありません。
	26	昨年度と比較して、肯定評価が14.7%上がっている。「挨拶、時間を守る」は礼儀の部分で外してはいけない項目であり、先生方から率先して実行されている状況が生徒にも伝播しているものと考えられる。時間を守るという事も、「信頼」「自律」などのお話をさせていただいた結果と考える。	朝の挨拶運動については、風紀委員が率先して実施してくれている。この運動については、来年度も継続して行いたい。挨拶を活性化することにより、「活気ある学校」のイメージが付き、来校者にもよい印象を与える。時間を守ることの大切さについては、今年度同様、朝終礼、ホームルーム等で説いていただく予定である。
	27	昨年度と比較して、肯定評価が8.1%上がっている。過去5年間の評価1+評価2の回答を合わせた数値の変化を見ると、6、7割台だったのが、9割を超過するまでに向上している。	データの数値だけを見ると、環境美化に対する意識・取り組みが学校全体として向上しているかに思えるが、現状を見るに十分とは言いがたい。廊下や靴箱の上に捨てられているゴミなどを見るにつけ、公的な場での環境美化ということについての啓蒙的な指導・活動がまだまだ必要であるとする。家庭での教育力に期待できない昨今の世相に鑑み、定期的な美化委員会の開催、委員会による清掃指導や清掃点検活動など、目的を持った、計画的な取り組みが行われるとよいのではないだろうか。そして、こうした環境美化の取り組みに関して、教員全体が同じ目的意識をもって指導に臨むようにできるとよいと思われる。
	28	昨年度と比較して、肯定評価が3.7%下がっている。前年度と同様、保健室来室者に対しては保健指導を行ったりしているが、来室者数や対応状況から全体に向けての指導は保健だよりや掲示物での伝達が限界で十分に保健指導ができているとは言い難い。前年度の改善点に挙げていた外部講師による講演については、性教育について保健体育科と連携し実施することができた。昨年度との状況の違いは感染症の流行であった。感染症流行による医療の逼迫に伴い、インフルエンザ・コロナウイルスについて医療機関に証明書を求めないようにとR3年度に国からの依頼で保護者が記載する書式で対応していたが、そのことにより、感染可能期間に誤って登校してしまうケースが散見された。これらのことを踏まえマニュアルの見直しと感染症罹患後の対応について再度周知徹底する必要があると考える。	昨年度は実施できなかったがん教育の外部講師による講演を実施していきたい。また、感染症対策については前年度の状況を踏まえ、マニュアルの改訂と実施方法の変更、また、全体への周知徹底を行っていきたい。
学校運営	29	評価1と評価2の肯定評価は、82%から84.3%に上がり、特に各教科や各分掌での会議がしっかりと行われている。	今後も、各教科や各分掌の会議の時間設定を、時間割の中に組み込んでいき、会議時間を確保していく。
	30	評価1と評価2の肯定評価は、81.6%から88.2%に上がり、各会議でしっかりと議論がなされることにより、教員の相互理解と連携がうまくなされている。	次年度も、和の精神の実践を促し、各会議でしっかりと議論を持ち、教員の相互理解と連携に努める。
	31	評価1と評価2の肯定評価は、93.9%から90.2%に下がった。2年連続の下落である。各部署での更新は頻繁に行われているが、他校と比べるとマイナーチェンジでは追いつけない部分も見えてきた。	当面、更新の頻度を上げ、マイナーチェンジで乗り切っていきたいが、ホームページの刷新を考えていく。
	32	評価1と評価2の肯定評価は、80%から86.3%に上がり、昨年度以上に各教科や各分掌で、外部研修の情報共有がうまく機能している。	各教科分掌で工夫して情報共有をしてもらっているが、今後も良い情報をうまく伝える方法を考える。
	33	評価1と評価2の肯定評価は、85.7%から84.6%にやや下がった。日々の多忙な校務の中で時間を作るのが難しいと思われる。	意見として、校務が忙しく研修に参加できないという声も聞くが、教員がまんべんなく研修に参加し、能力向上に努めてもらえるように促す。
	34	評価1と評価2の肯定評価は、95.9%から100%に上がり、良い結果となった。避難訓練も年々きっちりできるようになり、避難に要する時間も短縮され、意識の高揚が図られている。	コロナ禍が明け、実際に訓練ができるようになってきているので、火災や地震が起こった時のことを想定し、真剣に訓練を実施していく。
	35	非常に高い評価を得ている。維持したい数値である。	受験者数や入学数という結果のみを待つのではなく、分掌を問わず、教員が一人となり、「生徒募集」に対する強い意識を持ち続けていかなければならない。また、これからの生徒募集を考えると大手塾からの信用を得る必要がある。
	36	非常に高い評価を得ている。維持または、さらなる向上を目標に励みたい。	他校と比べると、現状ではHPへの情報発信が十分ではない印象がある。「分掌」や「中高の6学年」において「東の日常」を活発に発信していくことが望まれる。塾、小学校、中学校や、だれよりも四天王寺東の受験を考えている小学生や中学生、保護者にとっては関心の高い情報源(説明会後のアンケート結果からも顕著)だからである。また、在校生や保護者にとっても日常(生徒の熱心に取り組む授業風景や休憩時間等での笑顔)をご覧いただくことは、安心され、喜んでいただける機会でもある。先生方のご多忙は承知の上で、たとえば、行事に関わらず「在校生の日常」を各学年や各クラブで、毎月や各学期、季節ごと等で、積極的にアップしていく等の工夫が必要である。
	37	評価1と評価2の肯定評価は、100%から98%にやや下がった。常日頃から注意を促し、各教員も個人情報大切さを理解している。	昨年度も、個人情報の大切さについて注意をする場面が何度かあったが、小さなところから注意を常にしていく。
	38	評価1と評価2の肯定評価は、81.6%から90.4%に上がった。今年度も学校説明会や入試説明会でたくさんの職員に協力してもらい、職員の意識の高揚が図られた。	昨年度よりも生徒の志願者、入学者が上回ったが、生徒募集の大切さの意識をもって日々すべての業務に取り組んでいきたい。

* 学校関係者評価委員会からの評価（令和6年3月15日実施の会議とアンケートの内容をまとめた）	
目標1	<p>①校外活動は、コロナ禍明けなので肯定評価が少し下がっているのは仕方がないと思う。また、校外活動は、学校を通して社会性を学ぶ良い機会となるので、今後とも色々な企画を立案し、実行して欲しい。スキー学舎等参加が「任意」だと保護者が参加させたくても、子どもの主張が入ってくるので、なかなか参加してくれない。また、周りの生徒が誰も参加しないと、自分もやめておこうとなる。行事等に参加しなければ、子どもは家でただただと過ごしてしまうので「任意」という文言を取り除いて欲しいという思いだ。スキーとは別に、以前海外研修も申し込んだが、希望者が少なく不履行になったのが残念だった。</p> <p>②生徒会活動は、具体的にどのような活動をされているのかは知らない。活動自体が、一般的に大変な活動だと思われがちなので、参加する生徒が一部の生徒に限られているのではないだろうか。生徒会活動の良いところは、例えば生徒が実施したい活動を立案してきた時、それについて先生方から様々な問題を指摘されることもあると思う。なぜそういう指摘をされるのか、子どもの視点また、大人の視点と様々な視点で物事を捉え、考えられるようになることは貴重な経験だ。</p> <p>③人権教育も外からは見られないので、どのような活動をされているかは知らない。</p> <p>④いじめ事案は、本校では全く無いと思っているが、いじめについてどのような取り組みをされているのかは知らない。それとは別に以前中学から高校への申し送りが見られなかったことがあった。不登校生の対策について、学校としてどのような取り組みをされているのか興味はある。</p> <p>⑤仏教教育・仏教行事は学校でされていることなので意見もなく、不満もない。仏教の授業は、内容が中高生には難しいとは思いますがもっと関心を持って欲しい。</p>
目標2	<p>①学習支援についてはコロナ禍の時にZOOMで授業を配信する先生とやって下さらない先生がいた。学校を休んだ後の授業のフォローがなく、「ついていけないのか心配」という不安の声を聞いたことがある。先生によって授業のフォローの仕方が異なるので、「遅れてしまう」という意見もあったので、統一していただければありがたい。</p>
目標3	<p>①必要な情報を提供してもらっているが、それがここに表れている「100%」なのかという実感がない。保護者向けには高校3年生になってからは、様々な情報を得ている現状である。中学生の男の子はあまり学校での情報を家庭で話さないで学校で提供してくださるっている様々な情報が保護者の耳に入っていないことが多々ある。学校の中の学習に対しても何をどういう風にやっているのか見えてこない。生徒は、iPadでの連絡を必ず確認するという癖がついていない、使い方をきちんと理解していないところがある。ロイロノートでの生徒連絡をさくら連絡網で保護者にも送ってもらえないだろうか。生徒には、必ず家庭でロイロノートを確認するよう徹底して欲しい。</p>
目標4	<p>①生徒指導では、携帯電話の使用をどの辺りまで許可されているのかわからない。LINEの中での生徒同士の「もめ事」が多いと聞く。書き込んである内容等、学校としては介入できないし、ネットパトロールもできないが、ネットの投稿がすごいのが現状だ。公開、非公開ありで、今の高校生が心配だ。先生方は、学校でちゃんとしている生徒でも外部で何をしているかまではわからない。様々な事案について、何かあればその都度指導されているとは思いますが。</p> <p>②服装は乱れていないと思う。藤井寺近辺では特にきっちりしている子が多い。一般的に私学の校則は厳しいものだ。保護者は厳しいから品行方正に保たれていると思うが、厳しいだけの学校の生徒は抑えられて反発し、外へ出るとスカートが短くするなどしている。本校の校則は厳しくない。ただ先生間で生徒の指導を統一してくれていたら良いと思う。先生によって指導方法が違うということが問題だと思う。子供は屁理屈を言うし、現状毛染めをしている生徒が数名いて、それは親が地毛であると言っているというのも聞いている。インナーカラーをしている女子生徒もいるようだ。制定品について、1年中ウールのセーターやカーディガンを着ているので、四天王寺高等学校のように夏用のコットンのカーディガンを作っていたらありがたい。</p>
学校運営	<p>①卒業式後のHRの内容がクラス間で実施している内容が異なる。学年で統一していただけたらと思う。</p> <p>②あるクラブ活動がうまく回ってなかった。</p> <p>③入学してクラブ活動に参加したが、自分が思っていたクラブでの活動とギャップがあり、面白くないという生徒もいる。生徒とのコミュニケーションをしっかりとして活動内容について話し合ってもらいたい。公立中学校は、部活に力を入れている。また、高校生は自分たちで活動できる能力があるが、中学生ではまだ難しいので、顧問の先生が生徒を引っ張って欲しい。さらに、中学生が入部できないクラブがあり、好きな部活動を選択できなかったという声も聞く。様々なクラブを週何回と活動日を決めて実施している学校もあるので、本校においても中学生はできないではなく、中学生も様々な環境が欲しい。勉強も大事だが、社会性も大事。五感を鍛えることが大切だと考えている。スマートフォン、パソコン、では鍛えることができない。嬉しいや楽しいと感じられることが成長期の子どもたちには大切ではないか。そういう意味でも部活動の役割は大きいと言える。また、クラブで悔しいことがあれば、家でお母さんからの励まし声掛けがあり、子どもは頑張れる。中学生では特にそんな部活動で培われる心の成長が大事だと思う。余計に部活動の充実が大切だと思う。だからもっと先生方に寄り添ってほしいし、声掛けしてほしい。本校は若い先生が多いので期待しているところだ。剣道部、放送部が頑張っていると聞いている。中学からは、部活動をしようと思って本校に入学して来る生徒も多いが、部があるというだけで、活発さに欠けるという点が残念だ。</p> <p>④HPたまに見ている。否定的なことは思ったことはない。</p>

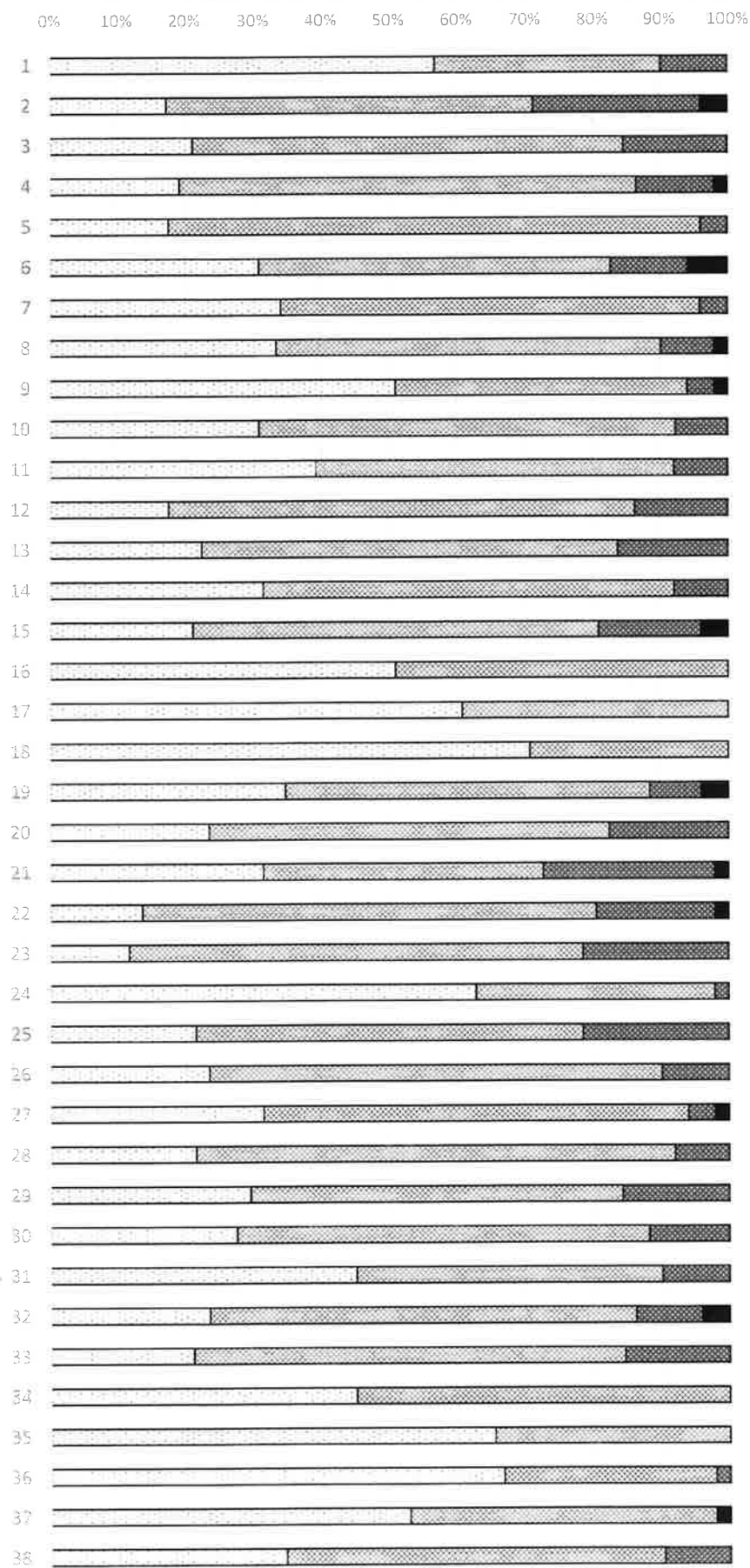
3. 本年度の取り組み内容及び自己評価				
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
調和の取れた人物を育成する。	4 規範意識を高め 2年連続で肯定評価が低い「服装規定を守らせている」を再度今年度の新たな重点目標とする。	ア. 登下校、並びに舎内で規定違反があればそのままにせず、その場ですぐに直させることを徹底する。 イ. 朝礼時に、担任教員は生徒の服装を確認し、規定違反があればその場で直させることを徹底する。	・教員自己評価アンケートのパーセント。肯定評価80%以上 ・教員取り組みアンケートも参考にする。	ア. 昨年度と比較して、肯定評価が11.1%上がっている。昨年度は67%で、3年連続で重点目標に設定し、取り組んできた。違反があれば、すぐその場で直させる指導が実を結んだと考える。ただ、肯定評価が上がったと言えど、まだ78%、目標とする肯定評価の80%には届いていない。 取り組みアンケートの先生方の自由記述の意見にもあるように、「教えていない学年の生徒に対する指導がなかなか難しい」、「教員によりその指導の仕方がバラバラ」という問題が解決していないからだと考える。 「全教員が統一した指導を行う」にはまだまだ考えるべき課題があるが、「直ぐにその場で直させる」という姿勢は、今後も続けていきたい。さらに、生徒にも粘り強く何度も何度も指導して行くべきだと考える。 イ. 取り組みアンケートの結果は、「できた」「ある程度できた」の肯定評価は100%であり、朝礼時に身だしなみのチェックをしていただいていることが読み取れる。あとは、アに記述しているような問題をどうすべきかにスポットを当てて考え、実践に移したい。 (○)
調和の取れた人物を育成する。	4 規範意識を高め 2年連続で肯定評価が最も低い「遅刻・欠席を少なくさせている」を再度今年度の新たな重点目標とする。	ア. 「時間を守ること」の大切さを事あるごとに説いていく。 イ. 遅刻した生徒には、必ず遅刻した理由を聞き、生活習慣の見直し等の指導をする。 ウ. 遅刻多き生徒にはイの指導と、どうすれば遅刻が減らせるのかを考えさせるとともに、家庭連絡を取り保護者の協力を得る。	・教員自己評価アンケートのパーセント。肯定評価80%以上 ・教員取り組みアンケートも参考にする。	ア. 取り組みアンケート結果では、「できた」「ある程度できた」の肯定評価が91%と高く、担任の先生の指導以外にも、授業及びクラブ活動においても必要に応じて時間を守ることの大切さを生徒に説いていただいていることが読み取れる。 イ. 取り組みアンケート結果では、「できた」「ある程度できた」の肯定評価が82%と高く、遅刻した際には、必ずその理由を確認し、必要に応じて生活習慣の見直しについても言及され、とにかく遅刻をしないよう指導されていることが読み取れる。 ウ. 自己評価アンケート結果から、昨年度と比較して、肯定評価が18.4%上がっているが、目標とする肯定評価の80%には届いていない。「遅刻、欠席を少なくさせている」については、2年連続60%代の否定評価が続き、3年連続「重点目標」とした経緯がある。今年度、毎日先生方が朝礼前から、廊下、下足室で声掛けをしてくださり、生徒の意識が変わったものと考え。今後も先生方には、「時間を守ることの大切さ」を事あるごとに説いていただくとともに、朝礼前から遅刻しそうな生徒に声掛けを継続して続けていただくようお願いしたい。 また、遅刻した生徒にはその理由を聞いていただき、生活習慣の見直し等の指導も継続して行っていただきたい。先生方の朝礼前の立番については本当に感謝しかありません。 (○)

<p>学校運営</p>	<p>研修、研究に参加した成果を他の教員に伝えて情報を共有する体制についての肯定評価は毎年肯定評価が80%であるが、全項目の中では不十分であるので今年度の取り組みとする。</p>	<p>ア. 責任者を指定する: 誰が情報共有の責任者かを明確にする。 イ. 情報を入れる場所の一元化: 「研修・研究成果」等のフォルダを作成し、皆が見やすいように整理。 ウ. 対象の明確化: 誰に対する情報かをきちんと伝える。</p>	<p>・教員自己評価アンケートのパーセント。 肯定評価85%以上 ・教員取り組みアンケートも参考に</p>	<p>研修、研究などに参加して得た情報を教科や分掌で共有できているについての自己評価アンケート結果は、昨年度より6.3%アップし86.3%と高評価となっているなど、多くの先生方が情報をシェア出来ていることが読み取れる、目標の肯定評価85%以上もクリアしている。 意外ではあるが、取り組みアンケートの結果は、「できた」「ある程度できた」の肯定評価が63%と低かった。その理由として時間が取れないという内容の自由記述があった。</p> <p style="text-align: right;">(○)</p>
-------------	---	---	---	--

令和5年度 自己評価アンケート 集計結果

資料①

設問	1	2	3	4
1	29	17	5	0
2	9	28	13	2
3	11	33	8	0
4	10	35	6	1
5	9	40	2	0
6	16	27	6	3
7	17	31	2	0
8	17	29	4	1
9	26	22	2	1
10	16	32	4	0
11	20	27	4	0
12	9	35	7	0
13	11	30	8	0
14	16	31	4	0
15	11	31	8	2
16	26	25	0	0
17	31	20	0	0
18	36	15	0	0
19	18	28	4	2
20	12	30	9	0
21	16	21	13	1
22	7	34	9	1
23	6	34	11	0
24	32	18	1	0
25	11	29	11	0
26	12	34	5	0
27	16	32	2	1
28	11	36	4	0
29	15	28	8	0
30	14	31	6	0
31	23	23	5	0
32	12	32	5	2
33	11	33	8	0
34	23	28	0	0
35	34	18	0	0
36	34	16	1	0
37	27	23	0	1
38	18	29	5	0



*各設問に対しての、1～4の評価をした

□ 1 □ 2 ■ 3 ■ 4

人数の一覧。

*評価： 1 (よくあてはまる) 3 (あまりあてはまらない)
2 (ややあてはまる) 4 (まったくあてはまらない)

過去4年間の肯定評価（評価1＋評価2）の推移と前年度との比較

資料②

表①は 1 + 2（％表示） になります。

①

設問	R1	R2	R3	R4	R5
1	84.6	88.4	89.1	96.1	90.2
2	71.7	69.8	76.6	76.5	71.2
3	69.2	90.7	87.2	86.5	84.6
4	46.1	72.1	68.8	80.4	86.5
5	74.3	79.1	83.0	92.2	96.1
6	84.6	81.4	87.2	81.6	82.7
7	69.2	86.0	95.7	84.6	96.0
8	76.9	93.0	89.4	92.2	90.2
9	84.6	95.3	89.6	98.0	94.1
10	48.8	67.4	91.5	90.2	92.3
11	71.8	88.4	91.7	94.1	92.2
12	71.7	79.1	72.3	82.7	86.3
13	48.7	76.7	83.0	92.2	83.7
14	92.4	83.7	91.7	90.4	92.2
15	64.1	74.4	83.0	92.3	80.8
16	84.6	93.0	97.9	100.0	100
17	84.6	97.7	97.9	98.1	100
18	94.8	97.7	93.6	98.0	100
19	89.5	95.3	93.8	96.2	88.5
20	64.1	65.1	72.3	69.4	82.4
21	64.1	74.4	80.9	71.4	72.5
22	66.7	67.4	76.6	77.6	80.4
23	64.1	62.8	55.3	67.3	78.4
24	92.4	97.7	95.7	98.0	98.0
25	61.6	65.1	68.8	60.0	78.4
26	56.4	74.4	87.2	75.5	90.2
27	74.3	65.1	83.0	86.0	94.1
28	74.3	90.7	89.4	95.9	92.2
29	76.9	74.4	84.8	82.0	84.3
30	66.7	67.4	85.1	81.6	88.2
31	76.9	93.0	95.8	93.9	90.2
32	51.3	58.1	80.9	80.0	86.3
33	56.4	74.4	79.2	85.7	84.6
34	89.7	88.4	95.7	95.9	100
35	97.5	93.0	97.9	95.9	100
36	94.8	95.3	95.7	98.0	98.0
37	92.3	95.3	97.9	100.0	98.0
38	74.4	81.4	85.4	81.6	90.4

平均	73.9	81.4	86.1	87.3	89.3
----	------	------	------	------	------

表②は 前年度からの増減（％表示） になります。

②

設問	R2-R1	R3-R2	R4-R3	R5-R4
1	3.8	0.7	7.0	-5.9
2	-1.9	6.8	-0.1	-5.3
3	21.5	-3.5	-0.7	-1.9
4	26.0	-3.3	11.6	6.1
5	4.8	3.9	9.2	3.9
6	-3.2	5.8	-5.6	1.1
7	16.8	9.7	-11.1	11.4
8	16.1	-3.6	2.8	-2.0
9	10.7	-5.7	8.4	-3.9
10	18.6	24.1	-1.3	2.1
11	16.6	3.3	2.4	-1.9
12	7.4	-6.8	10.4	3.6
13	28.0	6.3	9.2	-8.5
14	-8.7	8.0	-1.3	1.8
15	10.3	8.6	9.3	-11.5
16	8.4	4.9	2.1	0.0
17	13.1	0.2	0.2	1.9
18	2.9	-4.1	4.4	2.0
19	5.8	-1.5	2.4	-7.7
20	1.0	7.2	-2.9	13.0
21	10.3	6.5	-9.5	1.1
22	0.7	9.2	1.0	2.8
23	-1.3	-7.5	12.0	11.1
24	5.3	-2.0	2.3	0.0
25	3.5	3.7	-8.8	18.4
26	18.0	12.8	-11.7	14.7
27	-9.2	17.9	3.0	8.1
28	16.4	-1.3	6.5	-3.7
29	-2.5	10.4	-2.8	2.3
30	0.7	17.7	-3.5	6.6
31	16.1	2.8	-1.9	-3.7
32	6.8	22.8	-0.9	6.3
33	18.0	4.8	6.5	-1.1
34	-1.3	7.3	0.2	4.1
35	-4.5	4.9	-2.0	4.1
36	0.5	0.4	2.3	0.0
37	3.0	2.6	2.1	-2.0
38	7.0	4.0	-3.8	8.8

平均	7.5	4.7	1.2	2.0
----	-----	-----	-----	-----

設問内容は別紙を11ページを参照してください。

肯定評価（評価1＋評価2）の前年度比

資料③

番号	設問	評価1＋評価2	
		%表示	
		令和5年度	令和4年度
目標1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	90.2	96.1
	2 生徒会活動が活発に行われている	71.2	76.5
	3 部活動が活発に行われている	84.6	86.5
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	86.5	80.4
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取り組みが適切に実施されている	96.1	92.2
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	82.7	81.6
目標2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	96.0	84.6
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	90.2	92.2
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	94.1	98.0
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	92.3	90.2
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	92.2	94.1
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	86.3	82.7
	13 家庭学習時間の確保に向けた取り組みを行っている	83.7	92.2
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT（情報通信技術）を活用している	92.2	90.4
	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	80.8	92.3
目標3	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	100.0	100.0
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	100.0	98.1
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	100.0	98.0
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	88.5	96.2
目標4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	82.4	69.4
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	72.5	71.4
	22 社会のルールマナーを順守させている	80.4	77.6
	23 服装規定を守らせている	78.4	67.3
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	98.0	98.0
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	78.4	60.0
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	90.2	75.5
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	94.1	86.0
	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	92.2	95.9
学校運営	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	84.3	82.0
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	88.2	81.6
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	90.2	93.9
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	86.3	80.0
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	84.6	85.7
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	100.0	95.9
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	100.0	95.9
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	98.0	98.0
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	98.0	100.0
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	90.4	81.6

表の見方	
数字	表示は
1+2	で75%未満

を表します。
改善の余地がある項目になります。

*令和4年度は評価1+2が70%未満の場合に黒い背景に白文字となっている。令和5年の学校評価から基準を75%に上げて設定している。

令和5年度 学校評価

令和6年7月1日発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園
四天王寺高等学校
四天王寺中学校
校長 柏井 誠一

監修 教頭 森 隆

編集 学校評価検討委員会
委員長 浮邊浩一郎
委員 中山 栄治 近藤 哲也 矢野 元和